

# 令和7年度 第3回 静岡市感染症対策協議会 議事録

## 1 日時等

- (1) 日 時 令和8年3月6日(木) 19時15分から20時45分まで
- (2) 場 所 城東保健福祉エリア 保健福祉複合棟3階 第1・2研修室
- (3) 出席者 市川委員、伊藤委員、岩井委員、片平委員、草ヶ谷委員、莊司委員、  
白鳥委員、鈴木委員、鈴木委員、田口委員、水野委員、山本委員
- (4) 傍聴人 なし
- (5) 資 料
  - ・ 次第
  - ・ 委員名簿
  - ・ 席次表
  - ・ 資料1：静岡市感染症予防計画について
  - ・ 資料2：静岡市新型インフルエンザ等対策行動計画の改定について
  - ・ 資料3：静岡市新型インフルエンザ等対策行動計画（案）
  - ・ 資料4：今後のスケジュール（概要版）

## 2 議事

- (1) 静岡市感染症予防計画について
  - ・ 静岡市感染症予防計画における令和7年度の事業実績（主な取組）
- (2) 静岡市新型インフルエンザ等対策行動計画の策定（改定）について
- (3) 今後のスケジュール
- (4) その他

## 3 会議録

- 開会（司会）
- 挨拶（千須和統括監）
- 附属機関設置条例に基づく開催人数充足の確認（司会）
- 議事、議事録についての諸注意（司会）

### 【水野会長】

それでは、議事に入ります。

まず、「静岡市新型インフルエンザ等対策行動計画の改定について」、資料1の大見出し1から10までの総論（資料1・7ページまで）について、事務局から説明をお願いします。

### 【事務局：海野課長】

（※資料1「静岡市感染症予防計画について 静岡市感染症予防計画における令和7年度

の事業実績（主な取組）」について説明）

【水野会長】

ありがとうございます。

非常に多岐にわたる情報でしたが、ただ今の説明に対して、ご意見ご質問ありますか。

【伊藤委員】

全数把握対象感染症について伺います。まだ12か月分の集計ではないと思いますが、5類感染症の報告数が昨年度と比較して大きく増加しているように見受けられます。昨年度が少なかったのか、あるいは今年度に大きく増加した要因があるのかについてお聞きします。

【事務局：八木主任主事】

5類感染症が今年度大きく増加している主な要因として、百日咳の全国的な流行が挙げられます。令和6年度は静岡市における百日咳の発生はほとんどありませんでしたが、令和7年度は全国的に流行しており、静岡市内でも324件の報告がありました。この百日咳の増加が、5類感染症全体の報告数増加の大きな要因であると考えています。

【伊藤委員】

ありがとうございました。

【草ヶ谷委員】

関連してお伺いします。梅毒についても増加していますか。

【事務局：酒井主幹兼副主幹】

梅毒についてお答えします。梅毒の報告数は、令和6年が90件、令和7年が72件であり、前年と比較して微減しています。

【草ヶ谷委員】

ありがとうございました。

【伊藤委員】

「予防接種施策の推進」について、意見と質問があります。

HPVワクチンについては、新型コロナウイルス感染症の影響があったことは理解していますが、带状疱疹ワクチンについても昨年度より接種者数が減少しています。带状疱疹ワクチンは公費助成制度が設けられていることから、助成が利用できる期間に積極的な接種勧奨を行うことが重要ではないかと考えています。

また、接種者が増え、接種したことを周囲に共有されることで、他者への接種行動にもつながることが期待できるため、助成制度の活用を進めていただきたいと思います。

周知啓発についても様々な取組を実施していただけていますが、医師による勧奨に加え、薬剤師や調剤薬局等を通じてワクチン接種に関する情報提供を行うことも有効ではないかと考えます。実際に、医療従事者や知人からの勧めをきっかけに接種を決める方も少なくないと思われます。

あわせて質問ですが、ワクチン接種率について、市内における地域差を把握したデータはありますか。例えば、接種率が高い地域と低い地域などの分析は行われているのでしょうか。

【事務局：吉川係長】

地域差とは、市内の地域ごとの差異ということでしょうか。

【伊藤委員】

そのとおりです。地域によって接種状況に違いがあるのかを伺いたいです。

【事務局：吉川係長】

市内における地域別の接種状況については、特に分析を行っていません。

【伊藤委員】

最後に、結核対策について伺います。

静岡市では、日本語学校に通う方の結核発症事例が見受けられる印象があります。現在、入国時に潜在性結核感染症のスクリーニングを実施する仕組みが導入されていると認識していますが、その制度は十分に機能しているのでしょうか。

【事務局：酒井主幹兼副主幹】

潜在性結核感染症の入国前スクリーニング制度は開始されていますが、現在報告されている結核患者については、制度開始以前に入国していた方が多く、現時点では制度の対象となっていないです。そのため、制度の効果については、今後の動向を注視しながら評価していきたいと考えています。

【莊司委員】

今週、岡崎市の高校生における麻しんの集団発生が報道されました。静岡県は、特に MR ワクチン 2 期の接種率が全国的に見ても低い状況にあり、不安を感じています。

今回の資料は 1 月 31 日時点のデータですが、例年この時期の接種率と比較して低い状況なののでしょうか。また、3 月の春休み前後に駆け込み接種などによって接種率が上昇する傾向はあるのでしょうか。

【事務局：吉川係長】

1 月末時点の接種率であるため、残り 2 か月間で一定程度の上昇は見込まれると考えています。ただし、例年の推移や時期的な影響については把握できていません。

【莊司委員】

MR ワクチンは流通が不安定な時期があり、希望する時期に接種できない状況が続いていました。そのため、小児科では未接種者を減らす観点から第1期接種を優先し、第2期接種を延期してもらう対応を行った場合も多かったと思います。

そのような状況を踏まえ、小学校2年生など、対象期間内に接種できなかった方に対して、接種期間延長措置があることを周知する取組は行われているのでしょうか。

【事務局：吉川係長】

個別に対象者へ情報提供を行うところまでは実施していません。

定期接種の機会を逃した方に対しては、市独自の措置としてMR ワクチンを接種できる制度を提供しています。

【莊司委員】

つまり、第2期末接種のまま、接種を希望していても情報を得られず、接種機会を逃している方がいる可能性があるということですね。

【事務局：吉川係長】

1歳6か月児健診や3歳児健診の際には、未接種の予防接種がないか確認する案内チラシを配布しています。そのような機会を通じて周知を図っています。

【莊司委員】

その場合、小学校入学後の第2期末接種者に対して情報提供する機会はないということでしょうか。

【事務局：吉川係長】

現状では、そのような機会はありません。なお、第2期接種については、小学校入学前の児童を対象として、保育園や認定こども園にポスターを掲示し、「接種忘れはありませんか」という啓発を今年度実施しました。

【莊司委員】

小学校2年生などの未接種者については、制度を知らないまま情報提供を受ける機会がないということですね。

【事務局：吉川係長】

そのとおりです。

【水野会長】

現在の情報発信体制については、十分とは言えないのではないかというニュアンスですよ。

【莊司委員】

小学校入学後は行政から情報提供する機会がないことが分かりましたので、今後は別の方法による周知を検討する必要があると考えます。

【水野会長】

この点について、今後取り得る対策等があればお聞かせください。

【事務局：海野課長】

重要なお意見として受け止めています。今後の対応については、丁寧に検討してまいります。

【水野会長】

よろしくお願いいたします。

それでは、岩井委員をお願いします。

【岩井委員】

資料 8 ページのエイズに関する項目について伺います。

「エイズに対する偏見を持っている人が 59%」との記載がありますが、この結果がどのような質問に基づくものなのか気になりました。「偏見を持っていますか」と直接質問したのか、あるいは具体的な認識やイメージを尋ねた結果なのか、その内容が分かれば、今後の啓発や是正に向けた手掛かりになると思います。

また、この調査は市民を対象とした意識調査であり、偏見や差別のない社会づくりに役立つものと考えますが、私自身は市民以上に医療従事者の中にも偏見や誤解が存在していると感じています。医療従事者を対象とした調査についてもぜひ検討していただきたいと思います。

【水野会長】

今の意識調査について、回答内容などで分かっていることがあれば説明をお願いします。

【事務局：酒井主幹兼副主幹】

このアンケートは、大学でキャンパスキャンペーンを実施した際に、学生へ配布したものの二次元コードを通じて回答していただいたものです。

質問内容は、「エイズについてどのようなイメージを持っていますか」というもので、「治療で完治できる病気である」「原因不明の病気である」「仕事や学業に影響がある」「死に至る病気である」など、複数の選択肢を設けていました。

例えば、「死に至る病気である」と回答した方は 8 件（26%）でした。現在は治療により病状をコントロールできる病気であることが十分に認知されていない状況がうかがえました。また、行政が HIV 検査を実施していることを知らない方も多く、正しい知識が十分に普及していないことがアンケート結果から読み取れました。

【水野会長】

それは偏見というよりも誤解に近い内容ですね。「偏見」という表現とは少し異なる印象を受けるので、この表現は変更した方がよいでしょう。

【事務局：酒井主幹兼副主幹】

ご指摘のとおり、偏見というよりも正しい知識が十分に得られていない状況を示した結果であると考えます。

【水野会長】

岩井委員から、医療従事者を対象としたアンケートについても検討してはどうかとのご意見がありましたので、今後ご検討いただければと思います。

他の委員の皆様からご質問等がありますでしょうか。

【田口委員】

ヴィーナススタディについて伺います。非常に時間を要するとの説明でしたが、それはシステムの構築や運用開始までに時間がかかるという意味でしょうか。それとも、実際に運用が開始された後も、新たなワクチンが導入された際の副反応等の評価に時間を要するのでしょうか。例えば、次の新興感染症に対するワクチンが導入された場合、その副反応等を迅速に把握できる仕組みなのか、それともシステム上難しいのかについて教えてください。

【事務局：吉川係長】

ヴィーナススタディは、九州大学を中心として実施されている調査研究事業であり、全国から収集した様々な情報を用いて分析を行っています。

予防接種に関する情報だけでなく、医療に関する幅広いデータを活用した複合的な分析プロジェクトであると認識しています。そのため、現時点では、例えば今年度中に結果が得られるといった見通しは示されていない状況です。

【田口委員】

結果がすべて出そろふ必要はないのですが、例えば評価手法が確立された後であれば、新たなワクチンが導入された際にデータを入力することで、比較的短期間で結果を得られるようになるのかという趣旨で質問しています。

【事務局：吉川係長】

その点についても、現在の研究の中で、データ間の相関関係や分析手法の構築を含めて検討が進められていると聞いています。

将来的に必要なデータを入力すれば速やかに結果が得られる仕組みとなるかどうかについては、現時点では未定です。

【水野会長】

ヴィーナススタディに関するご質問でしたが、他にご質問等がありますでしょうか。  
それでは、確認したい事項もあるかと思いますが、時間が押していますので、次の議題に移ります。

議題（２）「静岡市新型インフルエンザ等対策行動計画の改定」について、事務局から説明をお願いします。

【事務局：海野課長】

（※資料２「静岡市新型インフルエンザ等対策行動計画の改定について」について説明）

【水野会長】

これまでの第１回及び第２回協議会でも議論がありましたが、県が示している行動計画の記載内容については、大幅な文言変更が難しいとの説明を受けています。そのため、表現の変更には一定の制約があり、具体的な対応については、今後策定するマニュアル等に落とし込んでいくことになるかと理解しています。

そのような制約の中で、これまでの協議会での議論を反映し、具体的な取組につながるような内容となるよう改定案を検討いただいたものと認識しています。

それでは、ただいまの説明について、ご質問等がありましたらお願いします。

【伊藤委員】

資料６ページの「実施体制」について伺います。

庁内各部署との情報共有や連携体制の確認を行うとの記載がありますが、実際に有事が発生した際、市役所内部の各部署間の連携体制は十分に構築されているのでしょうか。対策本部などの上位組織には情報が集約されると思いますが、その情報が各部署へ適切に共有され、各部署がお互いの取組状況を把握できる体制になっているのかをお聞きしたいと思います。

各部署がそれぞれの業務だけを把握している状態では円滑な対応は難しいと思われます。実際に他自治体では部署間の連携に課題があった事例も聞いていますので、その点について確認したいです。

【事務局：八木主任主事】

この意見が出された背景として、新型コロナウイルス感染症対応時に、庁内で必要な情報共有が十分に行われていなかったとの指摘がありました。特に初動段階では、今後どのような対応が必要になるのか、各部署が所管業務への影響を検討する必要がありましたが、必要な情報が各部署へ届くまでに時間を要したケースがありました。

また、地震等の防災対応と比較すると、感染症危機における組織体制や意思決定の流れが十分に整理されていなかったことも課題として認識しています。さらに、感染状況の変化に応じてどの段階で体制を強化するのか、どの会議体を設置し、どの部署が参加するのかといった基準も十分に整理されていませんでした。

こうした課題を踏まえ、既に庁内の危機管理担当部署と協議を進めています。現時点では情報共有の流れまで詳細に整理できている段階ではありませんが、今後は庁内で情報

の漏れが生じないよう、適切に情報共有できる体制の構築を検討してまいります。

【伊藤委員】

ありがとうございました。

【水野会長】

他にご質問、ご意見はありますでしょうか。

また、今回提示された改定案が最終案になるという理解でよろしいでしょうか。

【事務局：八木主任主事】

はい。軽微な文書体裁の修正を行う可能性はありますが、内容としては本案を最終案とする予定です。今後は3月中に庁内手続きを経て改定を決裁し、その後、県へ報告する流れを想定しています。

【水野会長】

委員の皆様からご意見やコメントはありますでしょうか。

市民委員の方はいかがでしょうか。

【片平委員】

障害者施設を運営しています。

本年1月に施設内でインフルエンザと新型コロナウイルス感染症の集団発生がありました。その際、検査キットを薬局で購入しましたが、インフルエンザと新型コロナウイルス感染症の同時検査キットは1つ約2,000円程度であり、費用負担も大きい状況でした。また、受診が難しい利用者については市販の解熱鎮痛剤等で対応しましたが、感染者の判定や隔離の判断が難しく、現場で試行錯誤しながら対応しました。行動計画には「市は国とともに速やかに検査体制を整備する」とありますが、今後、感染症が発生した際の検査体制について、国や自治体としてどのような体制を想定しているのでしょうか。

【水野会長】

新型インフルエンザ等に限らず、新たな感染症が発生した際の検査体制をどのように整備していくのかというご質問ですね。

【事務局：八木主任主事】

基本的には、新型コロナウイルス感染症流行時のような検査体制を想定しています。感染が拡大した場合には、保健所や医療機関におけるPCR検査等が中心になると考えています。一方で、障害者施設や高齢者施設などでは、利用者の移動が困難であり、医療機関や検査会場での検査が難しいケースも想定されます。その点については、ご指摘の通り課題として認識しています。

また、一般的な季節性インフルエンザへの対応と、未知の新興感染症への対応では、求



められる検査体制も異なります。なお、行動計画における「水際対策」の記載は、主に感染症発生初期の対応を想定したものであり、前回の新型コロナウイルス感染症対応でいえば、クルーズ船対応や検疫対応などが該当します。静岡市では清水検疫所との連携などが中心となります。

一方で、施設内で感染者が発生する段階は、すでに市中感染が始まっている状況と考えられます。そのため、単に医療機関での検査やPCRセンターでの検査に依存するのではなく、施設等でも対応可能な検査体制について、今後検討していく必要があると考えています。

【水野会長】

つまり、そうした柔軟な検査体制を構築できるような内容として、この行動計画の文言が整理されているという理解でよろしいでしょうか。

【事務局：八木主任主事】

そのようにご理解いただければと思います。

【水野会長】

他にご質問等がありますでしょうか。

山本委員、お願いします。

【山本委員】

意見というより感想になりますが、パブリックコメントについてです。

約1か月間の募集期間を設け、市民から広く意見を募集したにもかかわらず、寄せられた意見が1件のみであり、その内容も計画の内容ではなく体裁に関するものでした。

この計画について市民の皆様にもっと知っていただければ様々な意見が寄せられた可能性もあると思いますし、あるいは関心を持つ方が少なかったのかもしれませんが、結果として1件のみであったことについては、もう少し工夫の余地があったのではないかと感じました。

【水野会長】

ありがとうございます。

パブリックコメントの周知方法や意見収集の方法について、より多くの意見が寄せられるような工夫が必要ではないかというご意見だと思います。この点について事務局はいかがでしょう。

【事務局：八木主任主事】

ご指摘のとおり、市民の皆様から多くの意見をいただくには至らず、また寄せられた意見も計画内容そのものに関するものではありませんでした。

パブリックコメントの周知方法については、現在実施している方法が基本となりますが、ご意見を伺い、関係施設への資料配架を増やすなど、周知方法を工夫する余地はあった

と感じています。

一方で、市のパブリックコメントでは意見が全く寄せられない案件もある一方、市民の関心が高い案件では同じ募集方法や期間であっても数百件の意見が寄せられることがあります。そのため、必ずしも周知方法だけが要因とは言い切れない面もあります。

今回はこのような結果となりましたが、今後計画を改定する際には、関係施設での資料配架の充実や募集方法の工夫などについて検討していきたいと考えています。ご意見ありがとうございました。

【水野会長】

今回のパブリックコメントは、主に市公式 LINE や市ホームページで周知し、意見を募集したということですね。

【事務局：八木主任主事】

はい。そのほか、市政情報コーナーにも資料を配架しています。市政情報コーナーでは、パブリックコメントを実施中または終了した案件を各区で閲覧できるようにしていますが、利用される方はもともと情報を求めて来庁される方が中心となります。そのため、計画に関心のない方が偶然目にする機会としては、市公式 LINE や市ホームページが主な手段であったと考えています。

【水野会長】

より多くの意見を拾い上げられるような方法について、今後検討していただきたいというご意見として受け止めたいと思います。

他にご意見等がありますでしょうか。市川委員、いかがでしょうか。

【市川委員】

特に質問はありませんが、意見を述べさせていただきます。

感染症に関する情報発信については、非常に熱心に取り組まれていると感じています。しかし、毎週配信されている感染症週報動画の再生回数を見ると、依然として少ない状況です。再生回数が倍になったとしても 44 回から 88 回程度であり、多くの市民に届いているとは言い難い数字ではないかと思います。

私が担当している静岡新聞デジタルでは、今週、静岡県庁のある公式 SNS 運営担当者を取り上げた記事を掲載しました。その担当者は県職員でありながら SNS 運用に強い関心を持ち、発信内容や見せ方を様々に工夫しています。その結果、非常に多くの閲覧数や表示回数を獲得しています。行政の SNS は一般的に閲覧されにくいというイメージがありますが、工夫次第で多くの人に見てもらうことは可能です。そうした取組には担当者の熱意や創意工夫が大きく関わっていると思いますので、参考にいただければと思います。

また、感染症に関する情報発信では、特にワクチンに対して市民が依然として半信半疑な部分を抱えていると感じています。専門家の間でも見解が分かれるような情報については、市民が判断に迷うことも少なくありません。

そのような中で、行政が発信する情報について、「行政が示している内容であれば信頼できる」と市民に感じてもらえるような、信頼性の高い情報発信を継続していただきたいと思います。

さらに、今後はこの行動計画に基づいた運用段階に入ることになりますが、情報発信に関して一点申し上げます。行政は不要な混乱を避けるため、情報公開に慎重になる場合があります。一方で、報道機関側にも、情報を大きく取り上げることで結果的に混乱を招くことがあるという課題があります。

ただし、報道機関には、行政が情報を出し渋っていると感じると、より積極的に取材し、大きく報道しようとする傾向があります。そのため、報道機関の特性も踏まえながら情報発信を行うことで、より効果的な情報提供につながるのではないかと考えます。

【水野会長】

市川委員、貴重なご意見をありがとうございました。

事務局から何かコメントはありますか。

【事務局：八木主任主事】

ありがとうございます。

動画の再生回数については、私自身も今年度担当を引き継いでから取り組んでしましたが、現状では大きな伸びには至っていません。何らかのきっかけがなければ、多くの方に継続して視聴していただくことは難しいと感じています。

一方で、毎週継続的に見ていただくことを重視すると、一時的な話題性だけを追う発信にもできないため、発信方法については試行錯誤しているところです。

今後も様々なご意見をいただきながら改善していきたいと考えています。ご紹介いただいた事例についても参考にさせていただき、静岡新聞デジタルの記事等も確認したいと思います。

【水野会長】

ありがとうございました。他にご意見、ご質問はありますでしょうか。

それでは、特にないようですので、議題（３）「今後のスケジュール」について、事務局から説明をお願いします。

【事務局：海野課長】

（資料３「今後のスケジュール」について説明）

【水野会長】

ありがとうございました。

ただいまのスケジュールに関する説明について、ご質問等がありますでしょうか。

（質疑なし）

それでは、本日の議事は以上となりますが、その他に委員の皆様からご意見やコメント等がありましたらお願いします。

(意見等なし)

それでは、本日の議事を終了します。

委員の皆様におかれましては、円滑な議事進行にご協力いただき、ありがとうございました。以降の進行を事務局へお返しします。

○諸連絡、閉会